

アドミッションセンター報告書（第16号）の刊行にあたって

アドミッションセンター長 西郡 大

アドミッションセンターの活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。アドミッションセンターは、入学者選抜の企画・広報・実施等の業務を行い、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与することを目的として、2007年10月に発足しました。発足から17年がたち、皆様のご支援により活動が実績に結びついてまいりました。

高大接続改革事業には3つの柱があります。1つ目の柱である佐賀大学版CBTでは、タイプⅠの「基礎学力・学習力テスト」、タイプⅡの「思考力・判断力等を問うテスト」、タイプⅢの「英語技能テスト」を実施しています。2つ目の柱である特色加点制度は、2021年度入試より医学部を除く学部の一般選抜で導入できたことにより、「多面的・総合的に評価する新しい評価・判定方法を全学部に導入する」という第3期中期計画を達成することができました。インターネット出願と連動した書類審査の仕組み（J-Bridge System）は、大学入試のDXとも呼べるもので、一般選抜における効率的な書類審査を実現しています。3つ目の柱である継続・育成型高大連携カリキュラムは、「教師へのとびら」「科学へのとびら」「医療人へのとびら」「社会へのとびら」「アートへのとびら」が全6学部で開講され、全国的に先駆的な高大接続プログラムとなっています。2022年度から始まった第4期中期目標・計画においてもこれらの取り組みの継続と、発展的な展開が期待されています。

2023年度から新しく1名の専任教員が配置され、本センターの新たな業務として、入学前教育プログラムの開発・運用が加わりました。18歳人口の減少が加速する中で総合型選抜や学校推薦型選抜による早期合格者は増加することが想定されます。彼らを対象とする入学前教育はこれから重要性を増すことは言うまでもありません。本センターにおいて有効な入学前教育を設計し、本年度は新たなプログラムを実施することができました。

また、アドミッション・オフィサーによる高校訪問活動で収集した情報からは高等学校の現状を確認できます。ぜひ、高校訪問の報告部分をご覧ください。

入試制度、追跡調査、入試広報、高大連携活動などについて改革や改善を進める際に、本センターまでご相談ください。令和7年度も皆様には、一層のご支援、ご助言を頂きますようお願い致します。

令和7年3月